

等と
覚かく
寺じ



苅田町



山伏古道

トレッキング

山伏が歩いたとされる山伏古道を登り始めると、豊玉姫が祀られている青龍窟が姿を現します。凜とした空間がそこにはあり、自然の厳しさと共にあった山伏たちの山岳修験の場として存在するパワースポットとして有名です。青龍窟からさらに平尾台方面へ足をのばすと、鬼の唐手岩と福岡県唯一の湿原である広谷湿原が広がっています。湿原特有の貴重な植物も見ることができます。



青龍窟



鬼の唐手岩



広谷湿原



松会味噌



松会漬



等覚寺特産グループ



棚田米

お土産

等覚寺の山伏たちが修行に持ち歩いた秘伝の味噌・漬物。地元の女性が丁寧に漬けている味噌は、山べりの清流で育った米、福岡県産の大豆、自然塩のみを使用し、天然酵母を8か月間ゆっくりと自然熟成させた、甘みとコクが特徴です。東京など遠方からも注文があるほどの人気で、この味噌を食べたら他の味噌には戻れません。その味噌で漬けた漬物もあり、大根、にんじん、きゅうり、こしょうの葉など旬の野菜を漬け込んでいます。



いくりジャム



そば打ち体験

11月下旬 空の家

休耕地を使用し栽培されているそば。純白のそばの花が落ちた後、丁寧に刈り取った蕎麦のみを使用したそば打ち体験が楽しめます。マイそばを作ってみませんか。



竹の子掘り

3月下旬

集落周辺は竹林に囲まれており、春先には地面より竹の子の頭が顔を出します。見つけた竹の子の周りの土を掘っていきとりばな竹の子が現れます。いのししに食べられる前にいざ竹林へ。



①斑蓋
峰入りなどの際に用いられる。楕円で円型になった雨露よけの笠。斑蓋は仏頂荘嚴の天蓋を示し、衆生が母体内にいる時の胎衣を示すという。

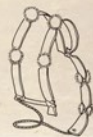


②頭巾
峰入りなどの際に、山中の薄気などを防ぐための小頭巾、黒の漆塗りで12の標の付け中央の頂が山形になっている



山伏十二道具

③結袈裟
九条袈裟を修行に便利のように簡略化した修験道独自の袈裟。



④法蓑
巻貝の大きなものを口口に結つてと意外に大きな首が出るので、修験者が読経・合図・指令などの際に用いる。



⑤錫杖
木製の棒の先に、両側に各三つの鉄の内環をはめた。半月形の鉄輪をつけ、音が出るようにしたもの、修験者は六輪はめられた菩薩錫杖を用いる。



⑥笈
山伏が峰入の際に必要な道具を入れて背負うもので、修験道の教義を形象化したもの。笈には、正先達を用いる「板笈(縁笈)」と、新客が用いる「横笈」がある。



⑨金剛杖
山伏が山中を歩いて修行する際に雑念や煩惱をはらうために用いる木製の杖。



⑩鈴懸
山伏の法衣で、袖二幅、身二幅、襟一幅、脇入二幅からなる上衣と、8枚の布を用いて前に六ひだ、後に三ひだ取る袴からなる。



⑦最多角念珠
修験道で用いられるソロバン(玉の形をした百八の珠からなる念珠。念珠は煩惱を断じて仏果を生み出す法具とされている。



⑧肩箱
肩箱は笈の上のにせる木製袈裟蓋の長さ1尺8寸、横6寸、高さ5寸の箱。山伏はこの中に峰書などの貴重品を入れていた。



⑪引敷
峰入の山伏が腰につける小さな皮の敷物で、多くは鹿・熊・兔などの皮にひもを付け、腰にしばりつけて尻の敷物とする。



⑫脚半
山伏が足の保護のために脛に巻く布、筒脚半(胎蔵界)、刺先脚半(金剛界)、胎金不二の脚半の3種類がある。



等覚寺の催し

- 4月 綱うち
柱おこし
等覚寺の公会
- 6月 田植え
- 7月 コスモス種まき
- 8月 いくり収穫
- 10月 稲刈り
コスモスマツリ
森のコンサート
- 12月 新そば試食会



最寄の駅・インターなどからのアクセス

苅田北九州空港インターより車で約30分
JR行橋駅より車で約30分

